

環境調査結果のお知らせ

平成22年10月20日
中央漁業指導所・水産試験場

平成22年10月20日午前9時から、浦ノ内湾の調査をしましたので、結果をお知らせします。

概況

湾内の環境は、透明度3.2~4.5m、水温25.1~27.1℃、塩分31.6~32.5、溶存酸素濃度0.66~6.98mg/lでした。湾内のプランクトン密度は前回調査時(平成22年10月6日)よりも減少していました。

水温と塩分(表1・2)

湾内の水温は25.1~27.1℃、塩分は31.6~32.5でした。水温は、昨年同期と比較して3℃程度高くなっています。光松から湾口側では、表層から底層までほぼ均質な環境になっていました。目の糞から湾奥側では、水深5m層の水温がその上下と比較して高くなっていました。

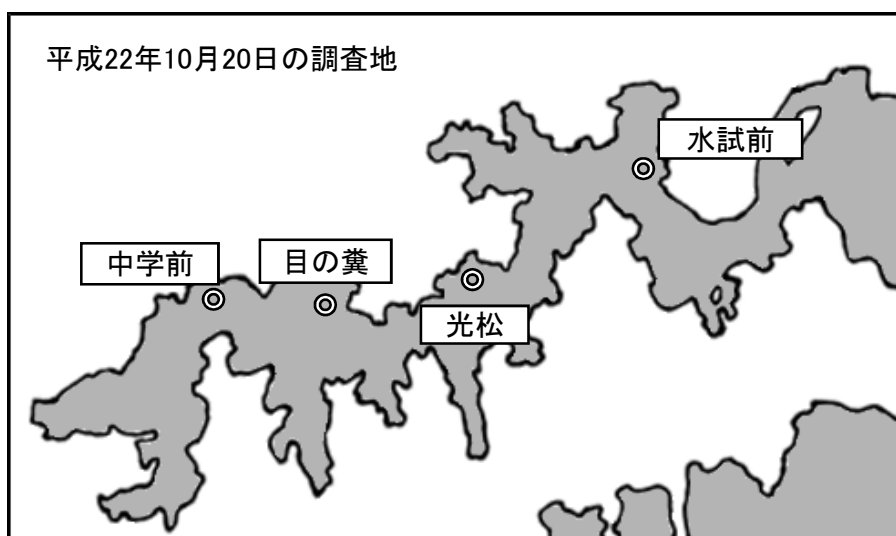
溶存酸素濃度(表3)

湾内の溶存酸素濃度は0.66~6.98mg/lでした。底層の溶存酸素濃度は2.49~5.74mg/lで、目の糞から湾奥側では低酸素状態が続いていました。また、目の糞から湾奥側では、水深5mに0.66~2.57mg/lの貧酸素層が形成されていました。貧酸素水塊が養殖漁場に移動すると、養殖魚に被害を及ぼす可能性がありますので、十分注意してください。

プランクトン(表4・5)

透明度はやや改善し、3.2~4.5mになっていました。有害種のヘテロシグマ・アカシオが僅かに確認されたほか、メソディニウム・ルブラムがやや多く見られました。

有害種の出現はごく僅かでしたが、湾奥部には水深5m層に貧酸素水塊があるので注意してください。海の状態や養殖魚の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲んで、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。



環境調査結果表(水温・塩分・プランクトン等)

表1 水温(°C)

調査地点	中学前	目の糞	光松	水試前	漁場平均※	前回調査(H22.10.6)	
						漁場平均	前回との差 今回-前回
0m	25.6	25.6	25.8	25.1	25.7	22.8	2.9
2m	26.2	25.7	25.9	25.3	25.8	26.4	▲ 0.6
5m	27.1	26.5	25.9	25.3	26.2	27.1	▲ 0.9
10m	26.1	26.0	25.8	-	25.9	27.4	▲ 1.5
B-1m	26.0	25.8	25.6	25.4	25.7	27.4	▲ 1.7

※ 目の糞・光松の平均値

表2 塩分

調査地点	中学前	目の糞	光松	水試前	漁場平均※	前回調査(H22.10.6)	
						漁場平均	前回との差 今回-前回
0m	31.6	31.7	31.8	31.6	31.8	23.4	8.4
2m	31.8	31.7	31.8	31.8	31.8	30.3	1.5
5m	32.5	32.3	31.9	31.8	32.1	32.5	▲ 0.4
10m	32.2	32.2	32.2	-	32.2	32.8	▲ 0.6
B-1m	32.3	32.4	32.3	32.4	32.4	33.0	▲ 0.6

※ 目の糞・光松の平均値

表3 酸素濃度(mg/l)

調査地点	中学前	目の糞	光松	水試前	漁場平均※	前回調査(H22.10.6)	
						漁場平均	前回との差 今回-前回
0m	6.33	6.98	5.81	5.99	6.40	9.79	▲ 3.39
2m	5.21	6.64	4.92	5.73	5.78	5.37	0.41
5m	0.66	2.57	4.63	5.75	3.60	4.23	▲ 0.63
10m	3.39	3.84	4.16	-	4.00	3.34	0.66
B-1m	2.49	3.63	4.51	5.74	4.07	1.79	2.29

※ 目の糞・光松の平均値

表4 水深・透明度(m)

調査地点	中学前	目の糞	光松	水試前
水深	12.2	15.3	16.8	9.8
透明度	3.2	4.2	4.3	4.5
前回透明度	2.5	2.8	3.2	4.0

表5 プランクトン(cells/ml)

		ヘテロシグマ・アカシオ	メソディニウム・ルブラム	ジャイロディニウム・スピラレ	ジャイロディニウム・ドミナンス	プロトベリディニウム属
中学前	0m	0	34	0	4	6
	2m	0	90	6	10	4
	5m	0	14	6	2	0
目の糞	0m	0	6	4	6	0
	2m	0	4	6	0	0
	5m	0	0	0	4	0
光松	0m	0	8	12	2	2
	2m	0	16	8	0	2
	5m	0	0	2	2	0
水試前	0m	4	0	4	4	0
	2m	0	0	8	0	0
	5m	0	0	10	2	0